

平成23年度
京丹後市農業農村振興ビジョン
年次報告書

京丹後市農林水産環境部農政課

平成23年度京丹後市農業農村振興ビジョン年次報告書

将来像	将来像実現のための振興テーマ	取り組み方針	成果指標となる目標	ビジョン策定時(H19)	H22	H23	H29目標	現状及び目標達成に向けての課題等
魅力的な生業となりうる農業、にぎわいと農的空間を持続する農村	◎地域を誇る生産に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 安定した米づくり(効率的な水田経営) 売れる米づくり(高品質化) 水田での基幹的な作物づくり 特色ある産品づくり こだわりの京野菜づくり 畑での基幹的な作物づくり 環境に配慮した作物づくり 	・農業産出額(農林水産統計による)	億円 73 (H18)	—	—	億円 75~85	○農業産出額 農林水産統計における農業産出額が、H19より市町村単位の推計から都道府県単位の推計に変更となったためデータが無い。 本市の基幹作物である丹後産コシヒカリは、全国食味ランキングにおいてH22は猛暑等の影響でAランクとなったが、H23は、特Aの復活を果たすことができた。H19から3年連続で全国食味ランキングで特Aになるなど通産9回目の特Aを獲得することができた。今後とも丹後米改良協会を中心に稲作管理情報等の周知や稲作適正管理指導を図っていくこととする。また、食味向上対策の支援として集落等に対して、適期刈取などの科学的な支援策についても検討を行っていくこととする。 特別栽培米の耕作面積も384ha(市独自調査結果)に達している。安心・安全な米の産地としての地位を築くための継続・安定した取り組みや施策を展開する必要がある。 今後、「バイオマス発電施設から出る食品残渣の液肥を利用した資源循環米「環のちから」の特別栽培米のブランド化を進めるものとする。 「京のブランド産品」である水菜や九条ネギなどのハウス栽培や砂丘地によるメロン・甘藷の推進や国営開発農地でのたばこに代わる新たな基幹作物の選定が急がれる。 本市は、H23に持続可能な農業の発展と豊かな自然・農村環境の維持・継続を目指すため「生物多様性を育む農業推進計画」を策定した。今後、計画に基づき環境にやさしい農業を着実に推進していく必要がある。
			・ほまれみチャレンジ取組団体数	0団体	3団体	3団体	10団体	○ほまれみチャレンジ取組団体数 ほまれみチャレンジ取組団体数は3団体とH22と同じである。認定団体の取組を広く周知するためホームページを作成した。今後も取組団体の農産物等の販売拡大・加工等の6次産業化につなげるとともに、市内他地域へ取組が波及するよう普及啓発を継続的に行っていく。
			・年間売上1億円以上の農産物数	11種	10種	9種	15種	○年間売上1億円以上の農産物数 H23は9種とH22に比較して黒大豆が減少した。黒大豆は、昨年の猛暑による着果不良と秋の長雨による品質低下などが影響しているものと考えられる。 年間売上1億円以上を目指す農産物として、九条ネギや枝豆、茶。これらの作付面積を増加するための支援・誘導策を講じるとともに、黒大豆などの復活を目指す取組みや現状1億円以上の農産物についても引き続き振興を図っていく必要がある。また、「京のブランド産品」の一層の振興とブランド認証や海外への輸出等についても検討していく必要がある。
	◎京丹後市の顔が見える流通に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 市民の顔が見える流通・地産地消 生産者の顔が見える流通 京丹後の顔を作る流通戦略 	・(仮)新農産物流通機構設立準備会の設置		H20年度設置済	H20年度設置済	H20年度内に設置	○新農産物流通機構の設立 民間事業者及び関係機関等で構成する「農産物流通戦略会議」において、地産地消や地産都消を図るための農産物流通戦略を策定した。戦略に基づき具体案を検討するため引き続き流通戦略会議で推進するものとする。 京丹後市内では、JAの取扱量が低下する中で、民間による様々な流通形態(市場出荷、インターネット販売、直売施設、産地直送等)が形成されつつある。 こうした中で、担い手認定農家を中心としたグループと市内・都市部の流通業者との結びつきによる新しい農産物流通形態の取組みや農家等によりRe.丹後LLPが設立され、丹後地域の農水産品、加工品、工芸品などの新しい流通(販売)に取り組む動きが出ている。 このように地産地消、地産都消の民間レベルの動きが活発化しているため、市としては、これら民間の動きを側面的に支援する制度の検討も進めることとする。 ○流通に関する取組 平成21年度に設立された認定農業者等で組織する「農業経営者会議」の会員を対象に、市内・都市部の流通・加工に関する様々な情報を提供・斡旋することにより、流通チャンネルの拡大を図っている。また、市内小中学校の給食において、「まるごと京丹後食育の日」として地域でとれた米や野菜、魚などを提供する地産地消の取り組みを進めている。
			・新農産物流通機構設立の具体的なプラン作成		農産物流通戦略会議において検討	農産物流通戦略会議において策定	H21年度内に策定	
			・上記プランの実行		未定	未定	H22年度より実行	

平成23年度京丹後市農業農村振興ビジョン年次報告書

将来像	将来像実現のための振興テーマ	取り組み方針	成果指標となる目標	ビジョン策定時(H19)	H22	H23	H29目標	現状及び目標達成に向けての課題等
魅力的な生業となりうる農業、にぎわいと農的空間を持続する農村	◎持続可能な地域を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみの農地と集落機能の維持 ・にぎわいと特徴のある地域づくり ・環境と調和した地域づくり ・地域を持続できる基盤づくり 	・「がっしゃー大好き故郷づくり」取組集落	0集落	8集落	8集落	20集落	<p>○がっしゃー大好き故郷づくり取組集落 がっしゃー大好き故郷づくり取組集落数は8集落とH21と同じである。認定団体の取組を広く周知するため新たにホームページを作成した。今後、他地域との交流促進につなげるとともに、市内他地域へ取組が波及するよう普及啓発を継続的に行っていく。市内では、ふるさと共援活動事業(5地区)、里の人づくり事業(4地域)に加え、中山間地域等直接支払制度(42団体と1個人)や農地・水・環境保全向上対策・共同活動支援交付金(95組織)を活用して、地域ぐるみの農地の維持と農業を通じた集落再生などに取り組んでいるため、これらの地区から掘り起こしを行っていく。</p>
			・鳥獣による農作物被害額	5千万円	13,690万円 ※府統一単価に変更	7,550万円 ※府統一単価に変更	3千万円	<p>○鳥獣による農作物被害額 H23は7,550万円の被害額でH22より6,140万円減少した。被害の大半を占めるイノシシ、シカの被害が3,983万円減少、カラスの被害が1,286万円減少したことが大きな要因である。捕獲対策では、捕獲檻の増設や捕獲班員の増加、広域一斉捕獲の実施、狩猟期間中のシカ捕獲拡大等により強化を図り、H23はイノシシとシカ合わせて2,431頭捕獲したが、H22と比べて532頭減となった。防除対策では防除施設への支援等、総合的に鳥獣害対策を実施した結果、前年度より被害は減少したが、被害規模は依然深刻なため、今後も他地区の事例を研究し捕獲対策を一層強化する必要がある。</p>
			・ほ場整備率	58%	59%	59%	70%	<p>「京たんご ぼたん・もみじ比治の里」ではH23イノシシ、シカ合わせて410頭を処理して販売しており、H22より84頭増加した。想定よりもイノシシの搬入が少なかったことから、搬入頭数増加に向けた対策を講じる必要がある。</p> <p>○ほ場整備率 H23については、前年と同じであるが、現在、大宮町森本地区においてH25の完了に向けてほ場整備を実施中である。また、久美浜町女布地区においてほ場整備に向けて地元調整を進めている。</p>